

学び、備え、行動する 「安心・安全なまち」

岐阜県高山市 大八まちづくり協議会

めざす姿は「安心・安全なまち」

大八まちづくり協議会は、平成27年4月に設立し、これまで「安心・安全なまちづくり」を目指し、11年間にわたり活動を続けています。

平成30年6月末から7月にかけての大雨では、土砂災害のおそれが生じ、指定避難所として東山中学校を開設しました。

その後も、大雪による倒木に伴う停電や台風被害などを経験し、地域全体で防災意識を高める必要性を強く感じるようになりました。

住民の声から広がる防災の取り組み

令和2年度に全戸を対象とした住民意識調査を行ったところ、シニア層の女性を中心に「ハザードマップを知らない」「見方がわからない」という声が多くあることがわかりました。コロナ禍ではありましたが、シニア層の女性が参加しやすい日中の時間帯にお弁当付きの防災講座を企画しました。その結果、20人ほどの参加がありました。このことから、防災は、「知る」だけでなく、「実感すること」や世代に合った「伝え方」が大切だと考えるようになりました。その後は、年齢や学年に応じた防災学習や体験型の企画を実行するようになりました。

また、地域住民の方が楽しく防災について考えることができるイベントを企画しました。親子連れの家族など、約500人が参加されました。このイベントは、防災クイズや地震体験など、体験を通して考える、学んで考える、見て触れるコーナーを設け、防災について考えていただく良い機会となりました。

令和4年度からは、大八地区の避難所マップや高山市のハザードマップなどを二次元コードで確認できるオリジナルの防災啓発カレンダーを作成しました。これを全戸配布し、アウトリーチ型の防災啓発も始めました。以降も毎年、内容を見直しながら、継続してお届けしており、好評をいただいています。

また、コロナ禍で集合イベントが難しい時期には、自宅から避難予定の避難所までの所要時間を記入する取り組みを行いました。





総合防災イベントの様子



65歳以上の女性対象の講座 1回目ハザードマップ

た。提出者には地域のスーパーなどで使える地域クーポンがもらえる、防災と健康づくりを組み合わせた企画も行いました。

次世代につなぐ防災学習

子どものうちから防災意識を育てるため、地区内にある東小学校と東山中学校で防災学習に力を入れています。当協議会は、設立当初から地域と学校の協働活動が盛んで、学年に応じたプログラムを作成・実行しています。東小学校では、授業参観の機会に親子で防災について学ぶ時間を設けています。様々な防災学習の積み重ねの中で、児童自ら震度7の被害想定状況を作成し、その中で命を守る訓練を行う児童主体の取り組みも生まれています。また、東山中学校でも生徒会が中心となり、自ら企画した防災啓発活動を展開しています。

そのほか、地域学校協働活動の一環として行っている東山中学校の「郷土の未来を語る会」では、地域の危険箇所マップを作成する活動や「安心・安全なまち」を考えるワークショップなども行いました。

地域の実情に合わせた防災活動

当協議会の設立当初から行ってきた町内



防災について学び発表する小学生

会長・自主防災組織のリーダーを対象とした防災講習や講演会も年々、改善・工夫を重ねて実施しています。現在では、大八地区にある16町内会それぞれの実態に合わせて、防災啓発活動をスムーズに行えるよう、様々なサポートを行っています。町内会単位での防災研修への講師派遣や地区防災計画作成ワークショップ開催支援などを行い、さらなるひとりひとりの防災意識の向上と地域防災力向上を目指しています。

「知る」から「動く」防災へ

ここ数年、防災啓発が「行動」へと一歩を踏み出したという実感ががあります。昨年からは、電子回覧板として利用できる「結ネッ



地区防災計画ワークショップの様子

これまでの成果と今後の課題

ト」を活用した安否確認訓練を行っています。これにより、災害時の情報共有の円滑化を図っています。スムーズな避難所設営を目的とした大八地区オリジナルのアクションシートを使った訓練や町内会ごとの避難所設営訓練なども行いました。また、地震が起きた際にどう行動すれば良いかを示したチャートを作成し、広報紙に掲載することで、住民ひとりひとりが考え、行動に移せるようにサポートしています。

全世帯を対象とした住民意識調査アン

ケートの結果に基づき、多様な防災啓発活動を行ってきました。その後もオンラインを活用した防災意識調査を2回実施し、P DCAサイクルを回しています。

その結果、シニア層の防災学習に参加した住民の中から、防災士の資格を取得する方が現れました。さらに、小・中学生の防災意識が高まり、主体的な防災啓発活動につながっています。

また、630人以上が登録する「結ネット」により、個人の防災への関心も高まっています。地区防災計画は9割の町内会で作成されるなど地域全体の防災意識の底上げができていると考えています。

しかし、すべての住民全体に防災啓発が行き届いているとは言えない現状もあります。甚大な災害に備えるためには、ここで満足することなく、常に情報を発信し、防災訓練など体験的な防災啓発を進めることが大切です。また、人と人とのつながりをつくり、深める活動も必要不可欠です。これからも一歩ずつ歩みを進め、安心・安全なまちを目指して活動を続けていきたいと思えます。

(大八まちづくり協議会

事務局長 山本真紀)



防災まち歩き



避難所設営体験